

---

# ヒューマノイドの葛藤

亜鉛合金

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヒューマノイドの葛藤

### 【Nコード】

N0043L

### 【作者名】

亜鉛合金

### 【あらすじ】

今よりももう少しだけ先の時代、科学技術が進歩し不完全ながらもヒューマノイドを完成させ、その普及が始まっていた。

そんな折、世界で初めて感情プログラムを搭載したヒューマノイドが使用者を殺してしまった。

本来はメーカーに回収されるべきはずが、様々な手違いで「人間」として裁判にかけられることになってしまう。

歴史上初めての裁判に、ベテラン検事と新米弁護士が挑むことに

なるのだが…。

プロローグ：平成五十二年十二月二十四日 如月邸にて（前書き）

本作は、近未来を描いたSF（？）・裁判小説です（ジャンルとしては微妙なので文学とさせていただけました）。

この物語はフィクションであり、登場する団体、組織名、事件等は架空のものです。

また、本来の裁判とは進行がことなる部分もありますのであらかじめご了承ください。

プロローグ：平成五十二年十二月二十四日 如月邸にて

やがて、ゆっくりと彼女がバルブにてを伸ばしたとき、如月はかすかに身じろいした。

「コワイのですか？」

彼女は、伸ばす手を引っ込めようとする。

「いや、違っただよ希望のぞみ」

如月は優しく否定した。

「違っただよ、怖いんじゃない。うれしいんだ」

「どうしてなのでしょう？わたしにはリカイができません」

「なんでだろうね？わたしにもわからないよ」

そう言いながら、下ろしてしまった希望の右手にそつと触れた。

「さあ希望。早くバルブを絞めておくれ」

「どうしてわたしなのでしょう？このようなことはオオサ

ワさまにおまかせされたほうが…？」

「今日の君は知りたがりさんだね」

如月はニコツと笑いながら、彼女の右手をつかみ、バルブを握らせ  
た。

「さつきも言ったじゃないか。君じゃなきゃだめなんだ。君が自分の手で締めることに意味があるんだ」

「……？やはりよくわかりません」

「いいよ、君がわからなくても。このことを考えるのは君たちじゃない僕たちなんだよ」

「……。コンランさせるようなことをいわないでください」

「ああ、ゴメンね希望。もういいだろう？さあ、絞めてくれないか？」

如月は希望から手を離し、そつと手を組んだ。

「はい……」

希望はしばらくためらっていたが、やがて覚悟を決めたようにそつ

言つと、ゆつくりとバルブを絞めていった。

シューと空気の流れる音が徐々に小さくなっていき、やがて部屋は静寂せいじやくに包まれた。

意識が霞かすんでいく中、希望の声が遠くから聞こえる。

「……。あなたは どうして つかれて いるのですか？」

… ああ、今日は 本当によく 尋ねて くるなあ……。

白んでいく視界で希望を見ながら、如月は思った。

… それはね、希望……。

… 君を泣かせることができてうれしいからだよ……。

如月はゆつくりと目を閉じた。

そして、彼が二度と目を開けることはなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0043/>

---

ヒューマノイドの葛藤

2010年10月8日23時55分発行